
モンスターハンター馬鹿が行く異世界はモンスターハンターに似た世界でなければならない

トリィケンスケ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンター馬鹿が行く異世界はモンスターハンターに似た世界でなければならぬ

【Nコード】

N0374V

【作者名】

トリイケンスケ

【あらすじ】

モンハン大好きな主人公！！

タイトル通りモンハンの世界に。

邪心はないけど、天生の誑しでハーレムを築く??

さあがんばるぜ！！

注：ハーレム・チート・主人公最高・作者の妄想・等々、が含まれます。

女神様と遭遇（前書き）

ども、トリイです。

異世界へと同時進行でやります。

どうぞよろしくお願いします。

「で、なんですか？」

さすが俺！表情に出さないとはい！！

「モンハンに似た世界に行ってもらおうかと思って！！」「キラキラキラ」

ハイハイハイハイハイハイハイハイハイ！！！！！！！！！！！！

ナアアアアアアンツツダアアアアアアトオオオオオオオ！

「そうですねか」「目を逸らす」

どっ、どっ、どっ、動揺してない！！

「そんなわけで7つの特典を、あげるよ。

1つ目に、身体能力。

2つ目に、運。

3つ目に、金、欲しい時に欲しいだけ出るから。

4つ目に、ハーレム能力、君に気がある人は、君と居ると心が落ち着くから。

5つ目に、技、匠の技を覚えるよ。

6つ目に、適度な道具。

7つ目に、装備、武器6つ、防具3つ、後、何か作ってあげる。あ

っ！チート付くから。

なにがいい？」

そ〜ん〜な〜に〜。スゲえな。なんだよ、ハーレムって。

いかん、いかん、どの装備にするかな。

「え〜じああ。武器は、ブリュンヒルデ・番傘【斬雨】・天上天

下天地無双刀・双龍剣【大極】・蒼穹双刃・阿武祖龍弩。防具は、

ドラゴンXシリーズ・シルバーソルGシリーズ・ミラーツZシリ

ーズ。作るのは防具でそうだな〜着物みたいなのに、銀陣羽織を

羽織った服みたいな、いっぱいスキルあるもの。で！お願いします

！！」

いいかな〜、多すぎるかも。

「いいよ」「即断」

いいのかーい。

現在へ

「じゃ、行ってらっしやーい」「笑」「
りよーかい！」

「行ってきます」「笑」

女神様に微笑み返し！

「ドン！！！！！！！！！！」

異世界に行く主人公。

どうなることやら。

次回、乞うご期待。

女神様と遭遇（後書き）

感想待ってます!!!!!!

異世界の家に現る人影は？……………(前書き)

どーも

ご無沙汰です。

異世界の家に現る人影は？……………

銀亜目録

みんなー、俺だよ銀亜だよ。
密林にある異世界の家にいます。

うん、今すごいことになってんだよね。
え？早く言え？は、はい。
驚かないでね。

……………

美少女2人がリビングに倒れてます！「ドーン」
ふははははは……………知りません。

知らない子です、ナンパもしてない、したことない。
しかも、この子達は、ハンターだ！
防具着てるし、太刀とボウガンもつとる¥(^^^)/

うん、おふざけタイム中止。

これは戦闘後だな。

防具は引っかき傷だらけ、軽く焦げてる。
そして防具は、剣士のほうがボロスシリーズ、ガンナーはウルクシ
リーズ。

とどめに少し呼吸が荒いな、毒受けてんじゃねえか？

これは解毒薬じゃなくて、げどく草使つて毒抜けなかったか。
つーことは、解毒薬を使い切ったか、持ってないか。
持ってないのは、狩に行くには不用意だな、
つまりは、使い切った上に食らったか。

つまりだ。

密林に居て、この防具を持つレベルの人をボロボロにできて、しかも毒を持っている。

.....

リオレイアかなー。

そうだよね、たぶん。

え？なんでいきなりそんな博識になってるかって？
それは、この家にあつた本を読んだ。

まあ、いいや。

とりあえず、毒を消すか。

えっと、こうして、ここをこうして、ここからここまでをこうして、完了！

次は防具を脱がそう。

え？違う違う、傷の手当てだよ！邪心はない！！

えっと消毒して、薬を塗って、包帯を巻く、完了！

あーとーはー、ベットに運ぶと。

だーかーらー！！邪心はない！！！！

さて、目が覚めるまで待つか。

一時間後

「ん」

おお、目が覚めたぞ。

「お目覚めかい？お嬢さん」

声を掛けるぜ！

「だっ誰！！」

Oh、敵意バリバリ。

「ん、この家の主かな」

嘘じゃねーし。

「そ、そうなのですか」

うん、そのとおり。

「で、お嬢さんはなんて名前なの？」

聞くべきだろ！ここは！！

「は、はい。私は、シリナ・レンナートで。

こっちは子は、幼馴染で、一緒に住んでて、パーティーを組んでる、ラミル・シンラートです」

ふむふむ。ガンナーのシリナに剣士のラミルね、うんうん覚えた。じゃ、次は。

「何で俺の家に居るの？」

やっぱ聞くべきだよな！

「えっと・・・それは・・・」

言にくいよね、うん。

「リオレイアに、やられたのかい？」

ふっふっふっ、驚いてるぜ。

「なっ、何でそのことを・・・」

「君らの状況を見て、普通に推測したんだ」

僕もできるとは思わなかった。

「その通りです」

やっぱりー。

1時間と少し前・シリナ視点

「やられた……」

リオレイアと戦ったけど負けました。
圧倒的だった、突進やブレス、サマーソルトなど、
どれをとっても強かった。

「大丈夫か？」

ラミルちゃんも心配してくれているが、
結構な傷がある。

毒も解毒したかと思っただけど、無理だった。
おかげでくらくらするし、熱もあるみたい。

「あつ、あそこに家がある！」

家を見つけました、休ませてもらおう！

「すいませーん」

誰か居るだ……ろ……う……か。

「ドサ」

目……かすんで……意識が……

「おいおい誰だ？」

1時間後

「うううん」

「ここは？ベット？」

「お目覚めかい？お嬢さん」

だれかいます！

「だっ誰！！」

男の人は誰でしょう。

「ん〜、この家の主かな」

え！そうなのですか？驚きました！

「なるほど、なるほど」

うん、説明を要約すつと。

- 1つ、この子らは近くのレージ村から来た。
- 2つ、リオレイアだけでなくリオウスも居る。
- 3つ、このままじゃ商団は来ないから飢え死に、村も危ない。
- 4つ、でも、倒せるハンター来ない。
- 5つ、片方ずつ狩ろうと思った。
- 6つ、だけど振り返り討ち。
- 7つ、どうしよう。

「どうでしょう……」

めっさ落ちコンドル。

ダジャレ言つとる場合じゃないな。

「俺がやるうか？」

実は俺、この世界のハンターカード持つてる。

判断基準違っけど。

ゲームだとハンターランクは数字だったけど、
こっちではアルファベットだ。

G < F < E < D < C < B < A < A A < S < S S < E A < E S < E X
だから、スゴイという意味のG級はなく、

SSまでは、その階級のアルファベットと同じ段数の依頼階級がある。

俺は、SSだな

「えっと、失礼ですが、ハンターランクは？」

うん、言うだろうと思った。

「あゝハイ」「ポイツ」

確認しろ、と言わんばかりに投げ渡す。

「じゃあ、拝見します」「ピラ」

ふっふっふ、驚くぞ

「え〜と、て！SSじゃないですか！！！！」

う、ウルサイ。ラミルちゃんが起きるだろ！

「なんじゃ？SS？」

お、お、起きた〜！

「やあ、おはよう」

挨拶は大事だ！うん！

「あ、おはようございまする」

うん、そう、しゃべり方変だな。

「あつ、ラミルちゃん！この人は、この家の持ち主で、私たちが助けてくれた、えっと……」

おっと、名前言ってないや。

「銀亜 翔だ。」

「銀亜さんです！」

力説してるよ。

「そうでござったか、それはかたじけのついでいます」

うん、二人とも可愛いな

「で、SSとは何がじゃ？シリナ？」

忘れてたな。

「そうだった！驚かないでねラミルちゃん。

この銀亜さんは、SSランクハンターなんだよ！」

胸はるところじゃねえだろ！そこ！

「な、なんと！」

そうそう、SSってたぶん正しい実力じゃあないな。だって、あの装備だからな、もっと強い。

「しっ、しかしだシリナ。どうやって報酬を払うのじゃ。無報酬はいかんど、ハンターとしてな」

へっプライド高いなっハンター。

「どうしよう、ラミルちゃん!」「チラ」

「うむどうするかの」「チラ」

「うん」「チラ」

「うむ」「チラ」

何でこっち見てんだ?
決めるって事か?

「どっしよっ」「チラ」

「どうするかっ」「チラ」

決めりゃいいのか!?
決めりゃいいんだろ!!

「私たちにできることなら何でもするんだけど」「チラ」

「そっじゃのう」「チラ」

あゝ!!--じゃあやっつて貰おうじゃねえか!!--!

「じゃあ報酬だけど」「キリ！」

「はい」

嬉しそつだな

「金は要らん。お前らの家に住ませてくれ」「ドーン……！」

驚いてる、驚いてる。

いや、ココ退屈なんだよ。

「えつ、そんなことで良いんですか？」

やっぱりね、男と一つ屋根の下つてのは……いいのよ……！

「いいんだ……」

「ハイ！」「笑顔」

いやー可愛いね。

「じゃ、さくつと狩るか」

えつなに？何で固まってるの？

「えつと、そんな、ふらつと行くんですか？」

え？

「何かおかしいかい？」

なんだ？なんだ？

「そんなに簡単に倒せるのかの？」

何だそんなことか？

「え？雑魚だろ？普通のリオ夫妻なんて」

ええ〜って顔してんな。

「そ、それなら、狩りを見せてください！」

「いいよ」

よし、行くか。

え〜と、神様に貰った防具に〜天上天下天地無双刀で行くか。

「すみませぬが、その剣、天上天下天地無双刀ではございませぬか？」

あ〜そついや幻の剣だったっけ。

「そつだよ」

なんか行きたそつだな〜

「一緒に行くかい？」「笑顔」

「ッ／＼／いいのか？」

顔、赤いな

「いいよ、いいよ」

よし行くか。

「じゃ、行くぞ。怪我するなよ、俺が困る」 「微笑み」

「ハイ／＼／」 「笑顔」

次回

このクソ誑しの狩りはどうなる？
乞うご期待。

異世界の家に現る人影は？・・・（後書き）

感想待ってます。

リオレイアアアアア！！シネエエエエエエ！！（前書き）

僕もう一つ小説かいてます。

リオレイアアアア！！シネエエエエエ！！

銀亜視点

「よし！リオレイアから行くか！」

何でかっと言うとだな、
なんとなくだ！

「えっ？道具なしですか？」

シリナが驚いてるけど、なんかおかしいか？
そもそも攻撃なんて、食らわなきゃ良いんだ。

「おかしくねえだろ？」

おっと、お前らは、がけの上で見てるよ

怪我されたら、たまらないからな。

「う、うむ」

よし行くか。

この防具のスキル、自動マーキング。

そうそう、このフィールドって、2Gなんだよね。
で、森丘のエリア5にリオレウス、9にリオレイア。

「んじあ、エリア9だ。」

「はい」

ラミル視点

「はい」

目の前に居る銀亜殿は、
あの天上天下天地無双刀を持ち、
リオレイアとリオレウスを雑魚と言いつつ切った。

そして・・・そのお・・・か、か、かつこいいのだ／＼／＼／
あの銀色の髪、銀色の目、透き通る声、
す、す、す、好きになったのじゃ／＼／＼／

「おい！ラミル！大丈夫か？」

ああ、その声が愛おしい、
なんだか落ち着くのだ。

「あ、ああ、大丈夫だ」

ああ、もう少しであの方の狩が見れる。

「よし、じゃあがけの上に居てな」

「はい、じゃあ後で」

「ああ」

さあ狩りの始まりだ。

シリナ視点

さあ狩が見れます、
どんなものでしょう。

「よっこいしょ」

がけの上にきました、
さあ狩りを見せて下さい！

あ！銀亜さんが走りだしました。

銀亜視点

「はっ」

走り出す俺。

まずは、飛ばさないように、

皮膜を切る。

「おおお!!!」

上段から一撃、

切り上げ、

持ち直してからの上段切り。

よし、ズタズタになったな。

ん？恐怖はないのか？

そんなモン感じる暇ねえよ。

「ふっ！」

咆哮している隙に、

全身に気合を入れ、

翼を折る！

「鬼刃切り!!!」

『鬼刃切り』これは俺が考えた切り方。

理性のリミッターをギリギリまで外し、

気合を剣先まで入れ、

切る切る切る!!!

「バキイイイイン」

よし折れた、

それを確認すると同時に、気合を抜く。

さらに剣を収める。

「ふっ
」

突進をしようとして、回転するリオレイアと同じ方向に回転する。
これで俺の姿は見えなはずだ。

ギヤガアアアアアア

リオレイアは有らぬ方へ、突進する。

「よっ
」

リオレイアに近づく。

「はあ!!
」

息を吐きながら切る。

「おらあ!!
」

鬼刃切りで、

切る切る切る切る切る切る切る切る切る切る切る切る切る切る切る切る
切る切る切る切る!!!
乱舞のように切る!!!

「ふっ!
」

突きを入れ、
切り下がり。

「すごいです!」

うん、シリナちゃん、
胸が当たってる。

これ限りなく服に近いから、
感触が直に来る。

「さすがでござる」

うん、貴方もだラミル、
胸当たってる。

「よし次だ、次」

20分後

「ラアアアアアア」

グオオオオオツオ・オ・オ・オ・オ・オ・オ・オ

「ズシイイイイイイイイン」

作者：普通に書いても圧倒していて、
つまらないので、
飛ばしました。

「よし終わり」

「銀亜さ〜ん」

「終わったぞ」

「ありがとうございます」

二人とも、胸当たってる！

「よし家に帰ろう」

「はい」

次回

村に行くことになった銀亜の運命は？
乞うご期待。

リオレイアアアア！！シネエエエエエ！！（後書き）

感想待ってます。

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……エエエ

もう一つ書こうかな。

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……………エエエエ

—————銀亜視点—————

ハハッハッハッハ。

チートよろしくの力で（実際チートです）
リオ夫妻をぶち殺した、
人の形をしたモンスター事、
銀亜 翔だよ。

いやー 弱 かつ た Z E 。

今、家に帰って詳しく
シリナちゃんとラミルちゃんのことを、
話してもらってる。

「へーラミルちゃんとシリナちゃんは、
同じ家に住んでて、
同じパーティーなのだけではなく、
両親がパーティー組んでたんだ」

そりゃ仲が良さそうな訳だ。

「はい もう一人居ますけど」「ギョッ」

へへもう一人居んのか。

そして腕に胸当てんの止める、
俺の理性がオーバーヒートだ。

「名前なんていうの？」

ヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイ、

俺の脳！腕の感覚を遮断しろおおおおお！！！！！！

「テイノル・ペイニードでござるよ 翔殿」「ギョッ」

テイノル・ペイニード、テイノル・ペイニード………。
(その後テイノル・ペイニードを唱えに唱える)

いかん無心になるために唱えてたら、

ゲシユタルト崩壊してきた。

グウウウウ！！オれノリセイガアアアアアア！！！！！！

「へ、へへへへ」「ガクガクガク」

俺の中の獣！！抑えろ！！！！

く、くそ！！持ちこたえられないだとおおお！！！！

く、第一種戦闘配備！！！！

敵は核弾頭により、理性の牢獄を攻撃中！！！！！！

現状からの回避をされたし！！！！！！

「あ、あのさ」「グググググ」

もう少し持ちこたえてくれ!!!

「ハイ?」「ギョツ」

本能の獣【ガアアアアアアアアアア】

理性部隊隊長【ちiiiiiiiiiiiiii】

本能の獣【グガアアアアアアアアア】

理性部隊隊員4【た、隊長!!!も、もう・・・ぐわあああああ】

本能の獣【グギギギギギ】

理性部隊隊長&1〜3、5〜7【ウルズ4!!!】

本能の獣【オオオオオオオオオオオ】

理性部隊5〜7【うわわあああああ】

理性部隊隊長【ウルズ5!!!ウルズ6!!!ウルズ7!!!くそお!!!
!俺に力が無いから!!!】

本能の獣【オガアアアアアアア】

理性部隊1〜3【隊長!!!に・・・げ・・・て・・・】

本能の獣【アアアアアアアアアアアアアアア】

理性部隊隊長【皆アアアアアアアアアア!!!】

俺：くそおおおおおもつムリイイイイイ。

「どうしたんですか！？銀亜さん！」「ギョッ」

この場から離れなければ……！！！！

「あのさ、おなか空いてない？」「がくがくがくがく」

「うゝむ、空いております」「ギョッ」

よ、よし！そうかそうか。

なら食おう、すぐ食おう……！！

「よし！じゃあつくりますか……！！」

よし離れた……！！

「「あ、私も」「」

NO……！！！！！！

それは繰り返しにスギナイZE。

「いいや……！俺が作るよ……！！」

これ絶対……！！決定……！！それがいい……！！……！！

「「じ、じゃあ」「」

よっしやああああああああ……！！……！！……！！

「じゃ、テーブルに座ってて」

そして台所に歩いていく。

次回

村に行くことになる、銀亜の運命は？
乞うご期待！！

あ、もう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……エエエ

はい、直しました。

感想くれるとうれしいです。

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……………エエエエ

さあ!!

前はタイトルとお話がぜんぜん噛み合わないお話でしたが、今回は大丈夫だと思いたい!!!!!!

今回は村に行くお話と、主人公がドンだけチートなのか、と言うお話の準備段階のお話です。

うるさいなあ。

理性部隊隊長【頑張ったんですけど！！！！何でこんな対応！！！！】

良いじゃん別に。

理性部隊隊長【良くない！！良くない！！！！】

うるさいなあ、じゃバイバイ。

理性部隊隊長【ちよっ！！聞いてる！！！！！！！！？？？もしも——！！！！】

作者【うるさい黙れ、先に進めない】

作者が隊長を消し飛ばした！！！！

理性部隊隊長【アツ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・】

ふう、さて！飯を作るか。

——今日のメニュー——覧——

なぜか家の後ろにあった畑から取れたとうもろこし入りのスープ。

同じくあった米から作ったご飯。

同じくあった野菜から作ったサラダ。

この前釣ったサシミウオとハリマグロの刺身。(醤油は作った)
はじけいわしのから揚げ。

作者【あゝ美味そう】

とりあえずは二人を呼んで、食卓へ行くか。

「おい、できたぞー」
二人に聞こえるように叫ぶ。

「ハイ」
二人の声が聞こえたので、食卓に食べ物をならべる。

「この世界の常識について聞いておくか」
実は、詳しくは知らないんだよね〜。

「よし、席に着いたな？」
いただきます!!」

「いただきます!!」

次回

次はこの世界の常識について語られる……！
乞うご期待……………！

作者【今回も、村いけなかった】 落胆

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……………エエエエ

今回も準備段階ルルルル。

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……エエエ

――――銀亜目線――――

どうも皆さん、銀亜翔です。

最近気が付いたんですけど、俺って何に向かって喋っているんですよ。ね。

まあ、いいです。

今、シリナちゃんとラミルちゃんにこの世界の常識について聞いていた。

しかし途中からおかしな方向に流れていった。

「ですから！こうなっているのにこうなので！銀亜さんは異常なんです！」

へへそうなんだ、道理であんなに驚いてた訳だ。「棒読み」

「分かっておられるのですか！？貴方は一般人はもちろん、ハンターでも逸脱した力を持っているのですよ！聞いてるんですか！！」

あゝあゝ、聞いてる聞いてる、聞ーいーてーるーよゝゝ」「心の中なのに、棒読み」

「「銀亜さん！！」」

如何してこうなったのかなー。

常識は、男女混浴が近親者では、ある程度当たり前で、ハンターの依頼受注制度に少し変更がある程度だったんだが……。

「「わかってるんですか！！？」」

二人が言うにはモンスターはもつと時間を掛けて、それこそ数日掛けて狩るものだったらしい。

今まで、少し色んなことが起こり気に入らなかったが、常識について話すうちに気が付いてきたらしい。

まあ、俺の身体能力やら動体視力やら色んなものが気持ち悪いくらいになっている。

リオレイアの筋肉の動きを鱗の上から見て次にどう動けるか分かるとか、リオレウスの翼の周りにある風の動きを10メートル以上離れた所から見て次に何処からどう動くか分かるとか、鱗の何処がどう脆く斬れ易いか分かるとか、筋肉や骨格から何処に心臓や臓器があるか分かるとか。

ね、気持ち悪いだろ。

で！今居るのは竜車の上だ。

一応クエストの受注は伝書鳩で街に受注したらしいので、レージ村ではなくここらでは一番でかい“シクスロード”に行くらしい。

49

そうそう、此処では引継ぎクエストがあるらしい。

これはクエストに失敗した時に他のハンターに頼み、報酬を上乗せして依頼を引き継ぐものだ。

両者の合意の上であれば、ギルドを通さなくていいらしい。

じゃあ、行こうか。

次回

乞うご期待。

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……エエエ

今回は予告なしです。

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……………エエエエ

今日はようちやく町です。

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……エエエ

—————銀亜目線—————

「へ、意外とでかいんだな」

そう思ったよホントに。
もっと小さいと思ってたんだけどね。

「そうですよね」

「ホントにのう」

シクスロードってスゴイでかいんだな。

やっぱり、石の床だけだね。

家は石を切りだして、積み上げてる感じですね。

家の大きさは、現代と同じぐらいだね、2階建てだけだね。

「こつちです銀亜さん」

「こつちですよ」

もっと奥の方に、ギルドがあるようだ。

つていうか、上り坂になってんな、メンドクサイな。

「で、もう少し？」

ちなみに俺は今、神に貰った防具に、ブリュンヒルデ・番傘【斬雨】
・天上天下天地無双刀・阿武祖龍弩を持っている。

そういえば、神に貰った防具って言い方めんどくさいんで正式に名前付けよう。

う~~~~ん、そくだ~~~~。

銀龍烈将【神死】でいいか。

「いいえ、まだまだですよ」

「この道を真っ直ぐですけどね」

え~~~~メンドクせえ。

一気にいくか。

「えっ！？銀亜さん！？」

「ちよっ!」

「ちよっとだまってて」

何時になるか分からないから早く行くために、二人を抱える。

「よーい、ドーン」

ダン!!

「「キヤアアアアアアアアアア……」

「「

ダッダッダッダッダッダッダッダッダッダッダッダッ

「早い!早いです!」

「もう少し!遅く!っ!」

「喋るな!舌嚙むぞ!」

ダッダッダッダッダッダッダッダッダッダッダッダッ

自動車並みの速さで走る。

「銀亜さんがたくさんいます！止まって！！」

「そうですね！！」

ふっ、そんなこと、このチートボディには

「関係ない！！」

そう言つと俺は横にあつた家の壁を垂直に駆け上がり、屋上伝いに走る。

ダッダッダッダッターンダッダッターンダッダッダッダッターン

「「キヤアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア」」

ん？もう少しで家がなくなるな。

「ぎ、銀亜さん！！」

「銀亜殿！！！！」

ギルドまでもう少しか、よし。

「オラッ!！」

ダッダ!ダン!……!!

ヒユウウウウウウウウウウユウウウウウウウウウウ

ダアアアアアン!……!!

びわびわびわびわびわびわびわびわびわびわ

「ふ、俺は鳥になれたみたいだな」

うん、気持ち良かったね。

「銀一亜一さん」

「銀座殿?」

あーそうだったね。

「ゴメンネ」

そう言いながら俺は、ギルドに入っていく。
二人を抱えたまま。

ざわざわざわざわざわざわざわざわざわざわざわざわざわ

「ちょっと！おろして下さい！」

「おろして下さい！」

「もう少し待て」

俺はカウンターと思われるとかに向かう。

「邪魔だな」

その道のりにたくさんの人がいる。
遅れるな、よし、もう一度飛ぶか。

「銀亜さん、跳ばないですよね？」

「銀亜殿どうなのですか？」

ふ、跳ばないよ。

「飛ぶんだよ」

ダアアアン！！！！

「同じじゃないですか！！」

ト
ント

「ち、降りる」

此処で良いだろ。

「は、はい」

あれっ、なんか静かだな。

そう思い、振り返ると

皆さん、口を大きく開けていた。

「まあ良いや、ほら、二人とも報告しなきや」

「あ、はい」

まだ皆さんこちらを見ている。

「どっかしました？」

乞うご期待。

あゝもう一人いるんだ。ふうん、帰ってきてないんだ。……エエエ

質問等感想までお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0374v/>

モンスターハンター馬鹿が行く異世界はモンスターハンターに似た世界でなけ

2011年10月13日11時49分発行